令和３年度　９月号　　令和３年 ９月７日、８日発行
横浜市立東汲沢小学校

“輝け！ひぐみっ子”だより

～東汲沢小学校教育目標「 学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子 」～

☏861-5531　https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/

いま、あらためて思う「なつけあう」ことの大切さ

校 長　丹 羽 正 昇

夏休み中、読書にいそしんだというひぐみっ子もいることと思います。もとより本を読むのが好きな子、まとまった時間が取れるから読んでみようと思った子、読書感想文を書くために読んだ子。読書感想文といえば、いつの頃からか、夏休みには読書感想文を書くことになり、そのために読書をするはめになるという、おもしろい現象がみられるようになりました。その結果、書店には読書感想文の書き方なる本が多数並んでいる。本当なら、本を読んだ感想を書き留めるのが読書感想文のはずが、主従が逆になってしまっていて、なんだかおもしろいですね。まあ、理由はともかく、本を読むことは、とてもよいことです。ひぐみっ子のみなさん、大いに、読書しましょう。

さて、私は、読書が大好きです。基本的にジャンルは問いませんが、年齢を重ねるとともに、物語よりもノンフィクションや科学読み物が好きになっています。そんな私ですが、この夏、「星の王子さま」を読み返す機会を得ました。それは、サン＝テグジュペリの傑作で、箱根にミュージアムが存在するほど、神奈川県にもゆかりのある世界的に有名な物語ですので、多くの方がご存じかと思います。その中で、私がひかれたのは、王子さまとキツネの会話です。会話の中に、「なつける」という聞きなれない言葉が登場します（訳者によっては、飼い慣らすとなっている場合があります）。この言葉に注目するきっかけになったのは、「星の王子さまの気づき」という本に出会ったのが大きいと思います。その本の筆者の思想的な部分ではなく、「星の王子さま」を読み解く視点に感心しました。筆者によれば、キツネが言う「なつける」とは、「何より大事なのは、君が心から気にかけている人に出会って、心を尽くして関係性をつくっていくことなんだよ。でも、そんな関係を築くのは簡単なことじゃない。時間をかけて相手に関心を注いで、話に耳を傾けて、相手の思いを理解したいと、心から願うことが必要なんだ。それ以外にも、お互いがいちばん心安らかに過ごせるあり方を探すのと同時に、相手に寄り添う責任を果たし、そして愛がゆえに流れる涙を受け入れる覚悟も必要になる。」そんな関係性のことだそうです。私は、これってまさに学校教育のことなのではないか。そして、子ども同士の関係性のことではないかと思いました。さらには、家族のことを言っているようにも思えます。キツネが言う「なつける」ということ。皆様は、どのようにお感じになりますか。

「なつける」という関係性、「なつけあう」としましょうか。これは、いまの時代にいちばん足りないことの一つかと、私は思っています。足りないというよりは、むしろ真逆の方向に進んでいっているのではないかとさえ危惧します。王子さまが、知恵者であるキツネに諭される場面は、自分だけ特別扱いをしてほしい、誰かを特別扱いしたいという王子さまのわがままを、キツネが優しく叱っているところです。誰しも人はわがままな一面をもちます。でも、それを貫けば、いつのまにか一人ぼっちになるよと、キツネが教えてくれています。人は一人では生きられないから、「なつけあう」ことを大切にして、豊かに生きていきましょうということです。

今回、改めて物語のもつメッセージ性のすばらしさを感じました。読書っていいですね。

そうそう、王子さまは、キツネの話を聞き終わった後、どうしたと思いますか。

それは、読んでのお楽しみです。

（参考文献:「星の王子さまの気づき」周保松 作　西村英希、渡部恒介 訳 三和書籍 2021）